

\*これらはいくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられますので、目標に照らして、観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方は必ずしも例示の通りである必要はありません。

外国語科学習指導案（例）  
（英語科学習指導案でもよい）

令和・年・月・日（・）・校時  
 ・ ・ ・ ・ 学校・年・組 ・ ・ 名  
 指導者 JTE ・ ・ ・ ・  
 ALT ・ ・ ・ ・

1  単元名 Unit ・ ・ ・ ・ ・  
 ・ ・ ・ ・ ・（教科書名）

2  本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標（第・学年）

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと

本単元で扱う領域を太枠で囲む。

各校で定めている「CAN-DOリスト」を記載し、学習到達目標との関連を明確にする。

3  単元における指導構想 この単元で、どのような資質・能力を目指すのかを明確にし、次の内容から記述する。

○教材観

- 本単元は、（単元の内容、教材の特性など） ・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・内容となっている。
- 言語材料としては、（言語材料がどのように用いられているかなど） ・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・
- したがって、（どのような力を付けることができると考えられるかなど） ・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・する力を養うことができるものとする。

○生徒観

- 本学級の生徒は、（単元につながるこれまでの学び、学習経験や実態、課題など） ・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・
- そこで、（本単元で生徒に身に付けさせたい資質・能力など） ・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・する力を養いたい。

○指導観

- 本単元は、（教材観や生徒観〔生徒の課題〕を踏まえた上で、単元のねらいに迫るための指導上
- の手立てや工夫など） ・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・適した内容となっている。
- そこで、言語活動として、（主な言語活動の内容、工夫など） ・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・を通して、○○ことと○○との技能の統合に焦点を当てた指導を行う。
- 単元終末の言語活動として、 ・ ・ ・ ・ ・に向けて ・ ・ ・ ・ ・もらうために、 ・ ・ ・ ・ ・をし、 ・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・をする。 ・ ・ ・ ・ ・をすることで、 ・ ・ ・ ・ ・たい。

コミュニケーションを行う必然性のある目的や場面・状況の設定を工夫し、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するようにする。



	<p>考えや感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>②対話文で使われている未知の語の意味や現在完了形（肯定文）の構造と意味を理解する。</p> <p>③前時までには学んだ引用方法を確認し、それを意識して再度、対話文の内容に関して、引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。</p> <p>④ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。</p>					
4	<p>■対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことを伝え合う。</p> <p>①現在完了形（完了用法・肯定文）を使って作成した教科書とは別の対話文を読み、引用などしながら、考えたことや感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>※②以降は第3時の③、④と同じ。</p>					
5	<p>■教科書の対話文とレポート（第3時で読んだ対話文の続き）を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>①教科書の対話文とレポートを読み、引用しながら自分の考えや感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>②対話文等で使われている未知の語の意味や現在完了形（完了用法・否定文・疑問文）の構造と意味を理解する。</p> <p>※③以降は第3時の③、④と同じ。</p>					
6	<p>■対話文や文章を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>①現在完了形（完了用法の否定文・疑問文）を使って作成した教科書とは別の対話文や文章を読み、引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。</p> <p>※②以降は第3時の③、④と同じ。</p>					
7	<p>■ピクチャー・カードを使い、受け身や現在完了形などを正しく用いながら、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する。</p> <p>①ペアになり、相手を教師やALTにみたてて、教科書本文内容についてピクチャー・カードを使いながら説明する。</p> <p>②一人一人が教師やALTに教科書本文内容を説明する。</p>				<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>＜活動観察＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定言語材料を使用しなくてはならない文脈で用いることができるか。</li> <li>・「話すこと [やり取り]」の言語活動で、特定言語材料を用いて自分の考えなどを伝え合う技能を身に付けているか。</li> </ul>
8 本時	<p>■初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。</p> <p>①スピーチ原稿を読み、考えなどをペアで伝え合う。</p> <p>②ペアで話した内容を書く。</p> <p>③自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>				<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>＜活動観察＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初見の文章を読み、読んだことについて、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合うことができる。</li> </ul>
	<p>自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、年間を通じて評価する。</p>					
	<p>単元終末の言語活動で、極力全員の学習状況を記録に残すよう努める。確実に全員分の記録を残すのは学期末のパフォーマンステスト及びペーパーテストの機会とする。</p>					
後日	<p>パフォーマンステスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「AIの進歩と私たちの生活」に関する記事を読み、読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。</li> </ul>				<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大単元（複数単元）終了後実施</li> </ul>

観点別学習状況の評価については、毎回の授業ではなく、単元や題材など内容のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階を精選して行う。

当該単元等で指導した言語材料

評価の時期は、「単元の終末」と「後日」を基本とするが、特定の言語材料が確実に使用されるような機会を別途設定することも考えられる。

1つの言語活動で基本的には3つの観点を一体的に評価

7 □ 本時の活動（第8時）

「単元の目標」，「指導と評価の計画」との整合性を図ること。

(1) 目標

□□.....することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点		評価の場面	評価方法
		JTE	ALT		
○分	1 挨拶をし，本時の目標について知る。	・全体に挨拶をし，個別に数名の生徒とやり取りをする。			
	(生徒に提示する目標)・・・伝え合おう。				
	2 Small Talkを行う。				
	3 (例) ~する。 ~知る。 ~表す。				
	4			知 思 態	活動観察
5 振り返りをし，挨拶をする。					

チームティーチングを行わない場合は、ALTの欄は必要ない。

具体的なゴールがイメージできるような表現で提示する。

表現の領域（話すこと [やり取り]，話すこと [発表]，書くこと）の評価においては，基本的には3つの観点を一体的に見る。

1人1台タブレット端末等をメインで活用した場面を太字で記入し，枠で囲む。

「おおむね満足できる」状況（b）を実現した生徒が，更に質的な深まりや高まりをもっている姿を具体的に想定して記述する。その際，評価がぶれが生じないように，（b）規準をしっかり設定しておくことが大事である。

(3) 評価及び指導の例（「話すこと [やり取り]」）

「十分満足できる」と判断される状況 (a)	..... .....している。
「おおむね満足できる」状況 (b) を実現するための具体的な指導	.....できるような支援する。
「努力を要する」状況 (c) と判断した児童への事後指導	.....し，.....よう個別支援を行い，..... .....しながら「おおむね満足できる」(b)を達成できるようにする。

指導の手立てを具体的に想定して記述する。

【参考資料】

- ・「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編」 文部科学省 平成29年7月
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」 国立教育政策研究所 令和2年3月
- ・「令和2年度 中学校外国語教育担当者連絡協議会配付資料」 文部科学省 令和2年6月
- ・「中等教育資料」 文部科学省